

## 講演要旨

### 『深海の海洋保護区の生態系モニタリングに向けて』

生物多様性の損失は、地球温暖化と並び大きな地球環境問題である。海では、さらに海洋プラスチック問題なども生じてきている。生物多様性を保全するために、生物多様性条約 CBD や SDGs では「2020 年までに、少なくとも沿岸域及び海域の 10%を保全する」という目標が打ち立てられた。日本でも沿岸域に加え、深海底に海洋保護区（沖合海底自然環境保全地域）が設定された。海洋生態系は変動するため、海洋保護区の設置後も、その機能が発揮されているかモニタリングし管理する必要がある。さらに 2023 年の CBD/COP15 では、「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、そのなかには 2030 年までに陸域と海域の 30%以上を保全する「30by30」などが行動目標に位置付けられた。日本周辺海域で、保全海域を拡大するには、沖合や深海底に保全する海域を新たに選定するしかない。したがって、既存の海洋保護区の管理と新たな保全海域を選定するためには、深海における生物多様性や生態系の科学的情報が益々重要となってくる。

しかし、深海で生物多様性や生態系を研究するには高額で大掛かりなファシリティが必要で、この限定的な研究方法が、深海の生物多様性や生態系の科学的情報を集積するには大きな障害となっている。本講演では、JAMSTEC で取り組んでいる深海研究の現状、新たな深海の生物多様性や生態系を研究する方法、さらに海洋プラスチック研究についても紹介する。